

頑張る

農業法人

綾部市西部に位置する

豊里中部地区で、広大な圃場(ほじょう)整備を機に「館町営農組合」から、2007年10月19日に法人化した農事組合法人「たち」。農地保全に努め、将来は若手担い手の育成や6次産業化にも取り組む、地域活性化のけん引役としての思いを高めている。

同地区は館町、豊里町、今西町、今田町の4町で、由良川の支流「犀川」に沿って低平な農地が広がる集落。水稲や茶、小麦などを中心に営農活動が展開されている。以前は農地区画が小さく農道も狭かったことから、1997年度から府の経営体育成基盤整備事業で、83畝の圃場整備を行い、2005年度に完了した。

了した。

1畝以上の大区画圃場が多く、大型農機による生産性向上、省力化などが可能になった一方、高齢化や後継者不足で農業生産に携われない農家が出てきたことから、整備完了の農地を守るうと各町で任意の営農組合が設立された。この中で館町営農組合は、耕作面積16畝で水稲中心に、小麦、小豆、茶などの生産に取り組んできた。

さらに高齢化が進み、集落での担い手を確保する必要が高まったことなどから法人化への歩みとなり、J A京都にのくことや、J A京都中央会、行政の指導を受けて今田町を除く3町が、それぞれ同一時期に法人を立ち上げた。

農事組合法人 たち

綾部市



今年から玉露生産を目指す茶園を背景に内田さん(中)と大槻正信さん(右) 大槻耕治さんの3役員

圃場整備機に法人化

組合員は50人、役員は代表理事の内田保さん(77)、理事の大槻正信さん(51)の3人。農繁期にはパートタイマーを7人雇用する。16畝の圃場で水稲8

農地守り担い手確保へ意欲

畝、小麦6畝、京都納言小豆6畝、茶1・7畝を栽培する。水稲は「コシヒカリ」。鉄コーティングで6畝を直播(ちよくは)栽培して省力化を図り、今後は同J Aが推進する特別栽培米を目指す。茶は昨年からの煎茶を出荷し、今年は茶棚を設置して玉露の栽培に力を入れ事業を拡大する。一方、法人が経営する農地は粘土質の湿田が多く、小麦、小豆、茶を栽培するには厳しさもある。

内田さんは「土質が悪いので生産には苦労しているが、高齢化が進む中、若い担い手確保のためにも、法人の経営基盤を固めないといけない。茶生産の拡大やもち米の栽培。加工、小豆の加工販売など6次産業化も進める。夢は大きく持ちたい」と意欲を高めている。

▽法人連絡先 綾部市館町下館43の1。電話 0773(47)0112(いずれも内田さん方)。